

## 動物虐待と暴力 関連づけを提起

専門家ら講演や討論

今まで見過ごされがちだった動物虐待を幼児虐待や家庭内暴力などといった暴力の指標や予兆として捉えることなどを提起する「動物虐待と人間暴力の関連性」(鳥取共生動物市民連絡協議会主催)が三日、鳥取市富安二丁目のささなか会館で開かれた。幼児や動物の



保護活動などに取り組む専門家らがそれぞれの立場で、見た目では分かりづ

幼児虐待と動物虐待の共通性などを話すパネリスト。三日、鳥取市のささなか会館

らい暴力の認識の重要性和個別の虐待が何らかの形で結び付いていることなどを訴えた。

冒頭、ペット研究会「互(ご)」を主宰する山崎恵子さんが基調講演。「動物を虐待するのは、自分がされていることを再現しているかもしれない。そういった子どもには命の大切さを教えるのではなく、ケアをしてあげなくてはならない」と訴えた。

この後、山崎さんのほか動物保護や幼児虐待防止の活動を行う専門家が加わって、動物虐待と幼児虐待の共通性をテーマにパネルディスカッション。パネリストは、幼児、動物両方のケースで、精神的な暴力や必要な世話をしないなど外見からは判別しにくい虐待を取り上げることの難しさを訴え、「問題を解決するには、法整備のほか対処する側が協力し合えるようにネットワーク作りが大切だ」と呼び掛けた。

## 子どもと動物虐待

### 早期対処考える

三日鳥取で

鳥取共生動物市民連絡協議会(仲市素子代表)は三日、「動物虐待と人間暴力の関連性」をテーマにしたシンポジウムを鳥取市富安二丁目のささなか会館五階大会議室で開く。一般市民の参加を広く呼びかけている。無料。青少年の動物虐待は、

子どもを取り巻く暴力と幸の山崎恵子さんが基調関係深く、将来的な人間暴力に発展するケースも多い。シンポジウムでは、子どもをさし迫った状況内でのシグナル気づき、周囲のケアで早期対処する重要性について考える。大和証券福祉財団の助成金事業。ペット研究会「互」主性テーマに討議する。